

北竜町立学校情報機器等の  
整備（更新）に関する各種計画

令和7年3月

北竜町教育委員会

## 【北竜町校務DX計画】

1人1台端末導入後、学習支援ソフトやデジタル教材等を活用し、教育のデジタル化を進めてきた。

今後、校務DXを推進するために、「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果を踏まえ、取り組みを以下の通り掲げる。

### 1 1人1台端末（指導者用）の整備

校務用PC端末を教員1人1台整備済みであり、1人1台端末（指導者用）の整備を完了している。今後、GIGAスクールの進展に伴い要求されるスペックの向上が予想されるため、計画的に必要な端末を整備していく。

また、教職員の働き方改革と教育活動の高度化を目指し、ゼロトラストセキュリティの考え方に基づいたアクセス制御とセキュリティを施した上で、校務系・学習系ネットワークの統合について検討を進める。

### 2 校務のデジタル化

校務のデジタル化にあたり、次のとおり各種システムを導入しており、ペーパーレス化、教員の業務効率化・負担軽減に寄与している。

- ・「マチコミ」の導入による保護者との連絡のデジタル化
- ・ロイロノートの導入による授業における課題の配信・回収や、職員会議におけるペーパーレス化、教員間における資料共有の効率化
- ・校務支援システムの導入による出欠管理機能や成績処理機能をはじめとした校務の効率化

### 3 今後の取り組み

今後さらなる校務の効率化を実現するため、学校現場との連携を図りながら一層のペーパーレス化、校務のデジタル化による効率化を図っていく。また、必要であればFAXのやりとりに関しても、各種関係機関に慣行の見直しを依頼していく。

## 【北竜町ネットワーク整備計画】

1 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合  
2校（100%）

2 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

（1）本町においては令和11年度に新校舎を建設し、義務教育学校を開設予定である。現在は各校では必要なネットワーク速度を確保できているが、義務教育学校となり、1校での児童生徒数が増加したときには必要な速度の確保ができないことが予想されている。

このため、義務教育学校開設までに学習用回線を強固なプロバイダと契約予定である。

（2）ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

本年度中にネットワークアセスメントを実施予定であり、結果如何では順次改善策の検討を開始する。

【北竜町端末整備更新計画】  
（公立学校情報機器整備事業）

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	96	86	96	92	96
② 予備機を含む整備上限台数		98			
③ 整備台数 （予備機除く）		86			
④ ③のうち基金事業によるもの		86			
⑤ 累積更新率		100%			
⑥ 予備機整備台数		12			
⑦ ⑥のうち基金事業によるもの		12			
⑧ 予備機整備率		100%			

（端末の整備・更新計画の考え方）

令和2年度に小中学校へ整備した端末（iPad）について、令和7年度に購入し、令和8年度に小中学校70台、中学校28台の更新を行う。耐用年数5年を超える端末の故障等は、現在のところ見受けられないが、バッテリーの劣化、タッチパネル等操作性の低下など、普段の使用に支障が出る恐れがあることから令和7年度購入、令和8年度更新を行う。

（更新対象端末のリユース・リサイクル・処分について）

○対象台数：128台

○処分方法

- ・使用済端末を公共施設や福祉施設などで再利用：30台
- ・役場庁舎内での活用（職員用手元端末、会議用等）：30台
- ・小型家電リサイクル法の認定事業者にて再使用・再資源化を委託：68台

○端末のデータの消去方法 ※いずれかに○を付ける。

- ・自治体の職員が行う

◎処分事業者へ委託する

○スケジュール（予定）

- ・令和7年10月 新規端末の購入手続き、納品
- ・令和8年 4月 新規端末の使用開始・旧端末の再利用
- ・令和8年 5月 使用済み端末のデータ消去
- ・令和8年 6月 使用済み端末の事業者への引き渡し

（その他特記事項）

なし

## 【北竜町】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」の内容並びにこれらに引き続く政府の議論等では、ICTの活用と少人数によるきめ細やかな指導体制の整備による「個別最適な学び」と、これまでも日本型学校教育において重視されてきた「協働的な学び」を一体的に充実し、子どもたちの資質・能力を育成することが求められている。

##### 【個別最適な学び】

- ・ 教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことで効果的な指導を行う。
- ・ 子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間の柔軟な提供・設定を行う。
- ・ 子どもの興味・関心・キャリア形成の方向性に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う。
- ・ 教師が子ども一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子ども自身の学習が最適なものとなるよう自ら調整する。

##### 【協働的な学び】

- ・ 探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する。

#### 2. GIGA 第1期の総括

国のGIGAスクール構想を踏まえ、令和3年度に全児童生徒分における128台の1人1台端末及び全学校における通信ネットワーク等を整備し、学校現場における教科や学習場面に応じた、情報の収集・理解・整理・発信・共有及び個別の学びのツールとして1人1台端末の日常的な利活用を図るとともに、1人1台端末の家庭への持ち帰りを可能とし、長期休業中の課題やデジタルドリル等を用いた家庭学習など、様々な場面で活用することで、児童生徒の学習意欲の向上及び学習環境の整備に努めた。

GIGAスクールの運営支援を業者に委託し、ネットワークトラブル等の早期解決や学校の要望に応じたICT講習会の開催など、児童生徒の学習環境に支障が生じないように努めるとともに、児童生徒に情報活用能力を身に付けさせるための教職員のICT活用指導力の養成を図った。

新型コロナウイルス感染症の感染等により学校に登校できない児童生徒の学びを保障す

るため、自宅に通信ネットワークが整備されていない児童生徒については、1人1台端末の持ち帰りに加えて、モバイルルーター等の貸出しを行った。

一方で、タブレットの恒常的な容量不足による不具合や起動までに時間がかかるなどのトラブルが多数見受けられた。

また、一部の学校では、必要なネットワーク速度が確保できていないため、利用場所によって、ネットワークの接続が不安定で端末操作ができないという事象が起きた。

### 3. 1人1台端末の利活用方策

令和3年度に整備した1人1台端末は、導入から4年が経過し、恒常的な容量不足等に起因する諸問題が生じており、日常的な授業等の利活用に支障が出かねない状況であることから、より高度なICT環境下での教育を推進し、1人1台端末環境を引き続き維持するため、令和7年度に全児童生徒分に予備機を合わせた109台の端末更新を行う。

委託業者によるGIGAスクール運営支援を継続し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善にいかすため、端末を日常的に活用できるように、ICT支援員による教職員向けの研修内容を充実させ、ICT活用指導力の向上を図る。

1人1台端末の日常的な利活用を継続するとともに、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、「不登校児童生徒の授業への参加・視聴機会の提供」、希望する児童生徒への教育相談の実施、「外国人児童生徒に対する学習活動支援」、「障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を必要とする児童生徒の実態に応じた支援」など、多様な場面での活用を検討する。

ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、既に導入している指導者用デジタル教科書に加え、学習者用デジタル教科書等のデジタル教材を導入し、授業等において効果的に活用する。

また、児童生徒が「自分で調べる場面」、「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」、「教職員と児童生徒がやりとりする場面」、「児童生徒同士がやりとりする場面」、「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」の5つの場面における具体的な活用方策について、課題の洗出しや活用事例の情報共有など、学校と連携を図りながら検討し、実行することで学校教育の質の向上を図る。